

青森ねぶた祭の提言書

～ 青森市民に、もっと愛される祭りとなるために ～

公益社団法人 青森青年会議所

目 次

◆ あいさつ	2
◆ 提言書策定にあたって	3
◆ 提言の構成	4
◆ 提言No.1 子どもに対するねぶた教育について ～未来の青森市を担う子ども達のための提言～	5
◆ 提言No.2 青森市民への参加促進について ～働く青森市民に対して参加促進をおこない、青森市への帰属意識を高めるための提言～	9
◆ 提言No.3 参加者のためのインフラ整備について ～祭りへ向かう青森市民の移動手段を含めたインフラ整備の提言～	15
◆ 提言No.4 運行について ～参加した青森市民のための運行に対する提言～	19
◆ もっと愛される祭りへ	29
◆ 追記	30
◆ あとがき	31

あいさつ

第67代理事長 佐藤 善 一

青森ねぶた祭の提言書をお示しするにあたり、この場をお借りしまして、日頃私どもの運動に温かいご理解とご支援を賜っております多くの方々に心から感謝申し上げます。

我々、青森青年会議所は、これまで故郷青森の明るい豊かな社会の実現を目指し、時世に先駆け運動を展開し、ひとづくり・まちづくりを実践して参りました。永い歴史の中で様々な運動を展開するにあたり、先輩諸兄が英知・勇気・情熱をもち、その精神を脈々と受け継ぎ地域に必要とされてきたからこそ、今日まで運動を継続することができ、おかげさまで昨年度、青森青年会議所は創立65周年を迎えることができました。そこで我々は過去を振り返り、これからのことを想い、青森の様々な魅力を最大限に発信し、人が行き交い、行ってみたい・住んでみたい・住み続けたい魅力あるまちを目指すために、5年間運用する中期ビジョン『Attractive Action Aomori ～行動しよう！魅力溢れるまちを目指し～』を策定しました。その初年度として、また青森ねぶた祭出陣50回目という節目を迎えるにあたり、ねぶた祭がこれまで以上に市民に愛され、魅力を発揮し続け、地域の発展に寄与していくために提言書を策定するに至りました。

青森青年会議所として過去にもねぶた祭に関する提言書は数回出したことはありますが、ねぶた祭だけでなく我々が住む青森を取り巻く環境は昔と大きく変わってきています。特に、現代社会において人口減少問題は様々な分野に影響を及ぼす大きな問題であり、我々が住む青森も例外ではありません。単純に解決する方法はないかもしれませんが、地域の特性を活かし、少しでも歯止めをかける運動を展開していかなければ加速度的に進んでいくものと思われます。その中でも、大きな鍵を握るのは青森市最大の魅力とも言えるねぶた祭です。参加する全ての人を魅了できるねぶた祭は、市民の誇りであり、他の地域と大きく違いをみせることができる青森市固有の特性であります。今回策定する提言書は、地方創生の鍵となりえるねぶた祭が、跳人の減少や後継者不足・市民参加意識の低下等で廃れていくことなく、これまで以上に市民に愛され続けること、更には青森市の発展を願い提言するものであります。この提言を青森市や関係機関と連携し取り組むことで、ねぶた祭の発展はもとより、他の地域とは大きく違う青森らしい魅力を伝えることができ、地方創生の一助になることを願います。

この提言をするにあたり、温かいご指導ご鞭撻を賜りました多くの方々に心より感謝申し上げますと共に、将来にわたり市民がねぶた祭を愛し誇りをもち続け、伝統文化として永遠に受け継がれていく根幹となることを目指し、今後とも青森青年会議所はねぶた祭を通して運動を発信して参りますので、一層のご指導、ご協力をお願い申し上げます。

提言書策定にあたって

第50代ねぶた実行委員長 倉 橋 龍太郎

青森市民の皆様、平素は公益社団法人青森青年会議所の活動に対して深いご理解とご支援をいただき、心から感謝申し上げます。

青年会議所は20歳から40歳までの青年経済人が集い、明るい豊かな社会の実現を目指しひとづくり、まちづくり活動を1951年より行ってまいりました。市民の皆様の絶大なるご支援ご協力を受けながら、まちの秘めたる可能性やまちの抱える課題に対して青年としての視点から微力ながらも活動を発信し続けさせていただいております。これまで以上に若さ溢れる行動力でまちに活力を生み出せるよう邁進して行く所存です。今年度青森青年会議所は、2021年までの中期ビジョンのスローガンである、『Attractive Action Aomori ～行動しよう！魅力溢れるまちを目指し～』に沿って、先人たちがこれまでに積み重ねてきた青森の様々な魅力を最大限に発信し、ひとが行き交い、行ってみたい・住んでみたい・住み続けたい魅力あるまちの実現に向けて運動するにあたり、「青森ねぶた祭」をテーマの一つに取り上げました。

青森ねぶた祭は、価値観や性別、世代を超えて誰でも参加可能な青森が誇る伝統文化であり、青森が青森であるアイデンティティの礎であり、広く市民に愛されている祭りです。本体・囃子・跳人が三位一体となったときの盛り上がりは比類なく、期間中は270万人以上の観光客が国内はもとより世界中から集まり、第三次産業を中心に多大なる恩恵をもたらしております。しかしながら生活環境と価値観の変化に伴い、青森市民の青森ねぶた祭への参画者が減少しており、このまま策を打たなくては運行関係者が居なくなり、祭りの開催が危ぶまれる恐れがあります。

そこで、青森市を象徴する文化である青森ねぶた祭を、これまで以上に我々の子や孫が誇りと愛着を持って楽しめる祭りとなるよう未来へ向けて持続発展していくために、提言書を策定することとなりました。

私どもは、青森ねぶた祭に関して経験や学びが非常に乏しかったのですが、今日までの1年半の期間において、青森ねぶた誌を始めとする多くの資料を読み込み、青森青年会議所内での数度に渡る討議会、策定部会はもちろんのこと、公益社団法人青森観光コンベンション協会様、青森商工会議所様、ねぶた制作者の皆様、そして各運行団体様と意見を交わし勉強させていただき、運行団体目線と一般市民目線から忌憚の無い若者らしいアイデアを取り入れることで今回の提言書の骨格を構築しました。

結びとなりますが、願わくば我々の提言書の策定により、皆様からの多数のご批評を賜り、それがひいては青森ねぶた祭について市民の中で議論が起きるきっかけとなり、多くの人々を巻き込み革新的な着想が生まれる一つの外郭になることができれば幸いです。今後とも宜しくご指導ご鞭撻を賜りたいと存じます。

提 言 の 構 成

青森ねぶた祭は国の重要無形民俗文化財に指定されている祭りであり、誰でも参加できる日本でも稀有な祭りです。我々も本年度、運行50回目を迎えるにあたり、様々な事業を通じて青森ねぶた祭の継承を行ってまいりました。運行団体として最近実感することは、少しずつ市民の祭り離れや、祭りの担い手の人材不足、高齢化が課題になりつつあることです。この先地域の人口減少に伴いその課題が顕著になることは容易に想像でき、今手を打たなければ手遅れになるのではないかと危惧しております。

この課題を解決するためには、今まで以上に市民の方々にこの誇るべき郷土の祭りを身近に感じてもらい、もっと市民に愛される祭りにしていくことが必要です。青森ねぶた祭は、参加すれば必ず好きになる、それだけの魅力を秘めた祭りです。

そこで今回、青森青年会議所内で策定部会を立ち上げ、青森ねぶた祭が未来永劫続き、もっと愛される祭りにするために4つの提言を策定しました。

もっと愛されるまつりにするために4つの提言

- ◇学生に対し深く掘り下げ教育することで、将来の担い手を増やす。
- ◇青森市・企業をあげ協力支援することで、祭りの参加人数を増やす。
- ◇祭り期間中の参加環境を整備することで、祭りの参加人数を増やす。
- ◇祭りの魅力が最大限発揮されるシーンを演出することで、参加市民・団体の満足度を向上させる。

次項から各提言の手法について詳しい内容を記載させていただきます。

提言No. 1

子どもに対するねぶた教育について

～ 未来の青森市を担う子ども達のための提言 ～

現状と課題

現在の子どもに対する「ねぶた教育」

ねぶた祭期間中の青森市内は、通常では考えられない程の賑わいをみせている。観光客も、青森市民も祭り会場に集まるためだ。この賑わいが将来にわたって持続するためには祭りを担う人材が確保されなくてはならない。町内単位でねぶたを出陣していた頃は、町内のねぶたに詳しい人間から次の世代へ知識や技術などを伝えていた。今でも地域ねぶたとして存在しており、中には学校単位でねぶたを出陣している地域もある。しかし、同じ青森市内であっても出陣する地域と、出陣しない地域などの差があり、出陣している地域であっても中心となって支えるリーダーが不在となれば途絶える可能性がある。このことは学校で出陣しているねぶたにも同じことが言える。地域ねぶたなどの衰退は、ねぶたに関する知識や技術をもった人材の減少につながる。

地域ごとに生じるねぶた教育の格差

地域ねぶたを出陣していない地域に関しては、伝えるべきねぶたに関する知識や技術を保有しておらず、同じ青森市内においても格差が生じている。学生時代にアルバイトでねぶたを曳いた経験のある人間であっても、ねぶたの起源については答えられないこともある。青森青年会議所では2017年度の事業として、中学生に青森ねぶた祭の歴史と変遷、簡単な規則や跳ね方を教える『Go! Fes!! ねぶた!!! (ねぶたを知って、祭りに参加しよう)』という事業を実施した。カラス跳人を知っている中学生は全体の2%程度であり、跳人の正装が大事である理由を知らないことは問題である。また跳ね方においても、8割の中学生が跳ねることが出来なかった。例えば、観光客にねぶたに関して質問されたときに、青森市民でありながら的確に答えられないことは嘆かわしく、質問した観光客にとっては「青森ねぶた祭は青森市民の祭りである。」という当たり前の事実に対して疑問が湧いてくるのではないかと思う。無論、質問に答えられる青森市民も存在すると思うが、問題は「答えられる青森市民」もいれば、「答えられない青森市民」も存在することである。

これらの問題の原因は「ねぶた教育の格差」にある。地域ねぶたや学校でのねぶたを出陣している地域もあれば、出陣していない地域もある。当然ながら、ねぶたに関する教育格差は生じてくる。これらの問題を解決するには、地域ねぶたを青森市内の全地域で出陣しようという手法も考えられるが、先述のように中心となるリーダーが必要であり、現実的ではない。そこで、義務教育の現場における「ねぶた教育」が考えられる。この事に関しては、志ある一部のボランティアが既に実行している。しかし、それだけで十分なのだろうか？ねぶたには起源や変遷などの知識も大事だが、「跳ねる」「制作する」「奏でる」といった様々な要素が存在するためである。これらの要素を教育するためにも、体系的なねぶた教育プランが必要である。

提 言

- 「青森ねぶた保存伝承条例」第4条にあるように、青森市内の学校において、ねぶたに関する歴史、制作、跳ね方に到るまでの教育をおこなうこと。小学校、中学校といった義務教育段階での教育が望ましい。

どの時間を実施するか

青森青年会議所『Go! Fes!! ねぶた!!! (ねぶたを知って、祭りに参加しよう)』という事業を実施したときは、授業の計画後に申し込んだので、先生方と話し合っただけの空き時間を利用した。しかし、今回のねぶた教育に関しては授業カリキュラムに組み込んでいただきたい。文部科学省の学習指導要領（平成29年3月公示）では、道徳の授業内容項目に「主として集団や社会との関わりに関すること」とあり、詳細な項目には「郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度」とある。これを有効活用することを提言したい。

図工の時間に金魚ねぶたの制作を実施する

ねぶたには図工・体育・音楽の分野にて、青少年が成長するために必要な優れた要素が含まれている。まずは、図工の時間に小さなねぶたを制作する。京都造形芸術大学では「京造ねぶた」を授業カリキュラムに取り入れている。デザイン案を自分で考えて決め、下絵を描き、模型を制作し、立体造形を制作する過程で芸術の様々な技法に接するためである。小さくてもねぶたを制作することは有益である。

跳ね方を教える

体育の授業で跳ね方を教えることも大事である。音楽のない状態で跳ね、次は音楽に合わせて跳ねるといった具合にステップアップしてゆくと教えやすい。大人でも跳ね続けるには体力が必要であり、足腰の鍛錬につながる。また、上半身を用いることで、少し楽に跳ねれることも体験するべきだと思う。跳ねる時間の耐久大会や高さコンテストなどの企画も組めるので、楽しい授業になると思う。跳ねるということは瞬発力、持久力を含めた体力向上につながるだけでなく、リズムに合わせて跳ねるといったリズム感を養うための良いトレーニングとなる。跳ね方は2拍子で跳ねるだけなので、誰でも教えることが可能だとは思いますが、分からないときは青森青年会議所が各学校へ行って教えることも可能である。

ねぶた囃子を教える

音楽の授業には、リコーダーではなく、横笛で簡単なねぶた囃子を授業する。外部の方に教えていただくことも可能であり、青森ねぶた正調囃子保存会や青森ねぶた凱立会に委託することも可能である。各学校へ出前授業を行う場合は、教えることができる学校数に限りがあるので、事前に相談する必要がある。青森ねぶた凱立会では教材としてのDVD制作にも携わっていることから、学校の先生へねぶた囃子を教えることも可能である。ちなみに、囃子に使う横笛は2千円前後で購入できる。

歴史と変遷を教える

ねぶたの歴史や変遷は、詳しい方に外部委託することも有益である。徳島市役所では、経済部観光課が小学校への「阿波踊り」出前講座の窓口となっており、応募のある小学校で阿波踊りの講習会を開催している。毎年、約10校から応募がある。委託する外部団体としては、近年、ねぶた伝承強化書を制作した「Team / 910」などが存在している。外部委託をしないで先生が独自に授業を展開することも可能である。青森青年会議所では2017年度の事業『Go! Fes!! ねぶた!!! (ねぶたを知って、祭りに参加しよう)』では、自分たちで制作した資料に基づいて、中学生を対象にねぶたの歴史や変遷、近代ねぶたの特徴などを説明した。その時に用いた資料は、いつでも公開可能である。

効 果

次世代の人材を確保し、ねぶた教育における地域格差を小さくできる

一番の効果としては、次の世代を担う人材を確保しやすいことである。また、青森市内の学校におけるねぶた教育を行うことで、地域ごとに生じる「ねぶた教育の格差」を小さくすることができるので、ねぶたを出陣する地域に住んでいなくても、「知識」や「跳ね方」「制作方法」「囃子の演奏」を習得することができる。これは参加員数の増加につながるだけでなく、ねぶたの基礎を学んだ「ねぶた初心者」の層を大きく広げることになる。

知るということは興味を持つことにつながる。興味を持ったならば、自ら進んでねぶた小屋の制作現場を見学しに行ったり、囃子の団体に所属したり、合同運行に跳人として参加してみたりと、自主的に学びにゆく者も出る可能性がある。また、どこかの運行団体に所属した場合も、最初から知識や技術を持っているため、人材教育を省力化することも可能である。もし、囃子や運行の団体に所属したい場合は、青年会議所へお問い合わせいただければ対応可能である。

青森市民としての自覚向上

青森市にとってもメリットがある。「ねぶた教育」を実行することによって、青森市民としての自覚向上につながるためだ。例えば県外に出たとしても、「ねぶた教育」を受けた者は機会があれば、ねぶたのことを説明できるため、個人が青森を発信することができる。これはミスねぶたが全国各地で青森ねぶた祭を発信することに似ている。

以上の効果により、青森ねぶた祭を将来にわたって持続させることが可能となり、祭りを愛する青森市民を今以上に増やすこともできる。

提言No.2

青森市民への参加促進について

～ 働く青森市民に対して参加促進をおこない、
青森市への帰属意識を高めるための提言 ～

現状と課題

見物や跳人、運行を含めた青森市民の参加

近年、人口減少が課題となっており、青森市も例外ではない。平成22年では29万9千人（第19回国勢調査）、平成27年では28万7千人（第20回国勢調査）と、5年の間に人口の4%の1万2千人が減少している。仮に青森市の人口に対する見物人を含めたねぶた関係者の割合が変わらないと仮定すると、青森市の人口が減少すれば、見物を含めたねぶた関係者の人数も減少する。現状として青森ねぶた祭は見物する青森市民や観光客で十分な賑わいを見せているが、運行団体として祭りを支えたり、跳人として参加したり、見物する青森市民の人数を維持し、増やすためにも何らかの対策をとる必要がある。特に運行団体としては運行を支える最低人数をクリアするためにも、活躍できる人材を確保しなければならない。

取り組むべき方向性

このことに対して、人口減少に歯止めをかけて、むしろ人口増加を目指すという対策もある。現在、婚活関連のイベントも多数あるが、成果が出ているかは不明であり、仮に成果が出たとしても誕生した子供が参加可能な年齢に達するには時間がかかる。それよりは、企業や団体において青森ねぶた祭に参加するように働きかける方が現実的である。

祭り参加へのハードル

青森ねぶた祭の期間は前夜祭を除き、昼運行を含めると8月2日～7日となっている。ねぶたが好きな青森市民にとって、その期間中は跳人として参加したり、見物に行きたいところだが、仕事の都合で行けないこともある。限られた人数で仕事をこなす中小企業ならば、特にそのような傾向がある。もちろん、仕事は生活を支えるために欠かせない大事なものである。中には、ホテルや旅館などの宿泊施設で働いていたり、クリーニング業者やコンビニなど、祭り期間中に仕事が集中する業種もある。そうした業種を別として、期間中も通常と仕事量が変わらないような企業や団体ならば、期間中の数日だけでも祭りへの参加促進を実行することもできるのではないだろうか。

提 言

- 青森ねぶた祭の期間中、営業日を1日以上休みにするか、仕事を早く切り上げて、青森ねぶた祭へ参加促進してもらうよう、青森市内の企業団体に働きかける。このことを「ねぶたDAY」として、条例で定める。
- 「ねぶたDAY」を実施した企業については、「ねぶたDAY実施企業」認定を受けることができる。
- ホテル業や飲食業など、観光客やねぶた関係者を支えているために「ねぶたDAY」を実施できない業種については、「青森ねぶた祭応援企業」認定を受けることができる。

「ねぶたDAY」実施企業について

全ての企業団体というのは無理な話であるが、実施が可能な会社も存在するはずであり、その企業に対して働きかけをおこなうようにする。

この条例に則り「ねぶたDAY」を実施のうえ申請をおこなった企業団体は「ねぶたDAY実施企業」認定を青森市から受けることができる。(下記の例1「ねぶたDAY実施報告書の作成例」を参照)実施対象人数が企業や団体に所属する人数を超えた時点で、実施をおこなったと判断することができる。認定の時期はねぶたが終了してから2ヶ月以内と限定し、出勤簿などのコピーも提出して確認する必要がある。所属する人数は正社員のみならず、役員、臨時従業員、パートタイム従業員、アルバイトを含めての話である。その際、1日に全員に対して実施するのが難しいこともある。よって、何日かに分けて数人ずつ交代で実施し、累計人数が所属人数を超えた時点で「ねぶたDAY実施企業」と認定しても良いと考える。

「ねぶたDAY実施企業認定マーク」について

「ねぶたDAY実施企業」認定を受けた企業は「ねぶたDAY実施企業認定マーク」(下記の例2「ねぶたDAY実施企業認定マーク」を参照)を名刺などに表示することができる。認定プレートであれば、事務所入り口などに表示することによって、青森ねぶた祭への参加促進を行っている企業であることをアピールできる。また、営業車や社員の車に認定ステッカーを貼れば、道路を走行しているだけで通行人などが見るので、高い露出が実現できる。認定プレートや認定ステッカーは目立つようなサイズが良く、青森ねぶた祭実行委員会が1枚当りの金額を定めて発行するのが望ましい。「現状と課題」でも述べたが、人材確保が困難な時代である。青森市で働くならば、青森ねぶた祭へ参加したいという人材にとっては、企業を選定する理由の1つとなる可能性がある。また、企業団体にとっても、アピールポイントの1つとなる。3年継続して「ねぶたDAY実施企業」認定を受けた企業は「プレミアムねぶたDAY実施企業」認定を受けることができる。「プレミアムねぶたDAY実施企業」認定を希望する場合は、実施報告書をコピーにて保管しておき、申請時に自主的に申告する必要がある。

ねぶた祭応援認定について

ホテル業や飲食業、コンビニを含む小売業関連などは、「青森ねぶた祭応援企業」認定を青森市から受けることができる。ねぶたに直接携わることができなくても、観光客やねぶた関係者を支えており、青森ねぶた祭を支えていることになるためだ。業種として明らかに祭りを支えていることが判断できるため、申請を行えば、認定をしても良いと思う。認定した企業には「ねぶた祭応援認定マーク」(下記の例3「ねぶた祭応援認定マーク」を参照)を名刺などに表示することができる。「ねぶたDAY実施企業認定マーク」のように認定プレートや認定ステッカーを青森ねぶた祭実行委員会が1枚当りの金額を定めて発行するのが望ましい。

例1) ねぶたDAY実施報告書の作成例

「ねぶたDAY」実施報告書					
●ねぶたDAYに定めた日時と実施状況（当てはまる項目にチェックして、詳細を記載して下さい。）					
	休日に定めた		仕事を早く切り上げた		
8月2日	☐	☐	～	時	分で仕事を切り上げた
8月3日	☐	☐	～	時	分で仕事を切り上げた
8月4日	☐	☐	～	時	分で仕事を切り上げた
8月5日	☐	☐	～	時	分で仕事を切り上げた
8月6日	☐	☐	～	時	分で仕事を切り上げた
8月7日	☐	☐	～	時	分で仕事を切り上げた

●ねぶたDAYの対象とした人数			
	全員	交代で実施した	
8月2日	☐	☐	() 人
8月3日	☐	☐	() 人
8月4日	☐	☐	() 人
8月5日	☐	☐	() 人
8月6日	☐	☐	() 人
8月7日	☐	☐	() 人
		合計	() 人

役員含めた企業・団体に所属する人数
 () 人

以上、所属する人数以上に対して、「ねぶたDAY」を実施したことを報告します。

企業・団体名 _____ 印

代表者名 _____ 印

例2) ねぶたDAY実施企業認定マーク

※認定マークは制作例であり、イメージです。



例3) ねぶた祭応援認定マーク

※認定マークは制作例であり、イメージです。



例4) ねぶた祭応援認定申請書の作成例

「ねぶた祭応援企業」申請書	
業種	
青森ねぶた祭との関わり	
例) 弊社は祭り衣装を洗濯することで、祭りに貢献しております。 例) 弊社は観光客を宿泊させることで、祭りに貢献しております。	
上記理由により、申請いたします。	
企業・団体名	印
代表者名	印

効 果

営業日を休みにした会社の例

仕事の都合で、参加したくても参加できなかった青森市民は存在する。青森市内の企業で3年ほど前から8月5日や、その前後を休日に定めた会社がある。その会社の社員は、その日になると祭りを家族で見物したり、運行団体として参加するようになったという実例がある。「ねぶたDAY」を実施したから、必ず青森ねぶた祭に参加するとは限らない。家でお酒を飲む人もいるかもしれない。しかしながら、この「ねぶたDAY」を実施することで、見物しに行ったり、跳人として参加したりという具合に、青森ねぶた祭の賑わいへの第一歩となることは間違いない。家族で見物などに行った場合は、子どもにとっても青森ねぶた祭に触れ合う機会が増えることから、次の世代が青森ねぶた祭に興味を持つ契機となる。「ねぶたDAY」が活用されるためにも、青森ねぶた祭に興味関心を持ち、参加したくなる青森市民を増やす「ねぶた教育」も大事になると思う。

認定マークの効果

「ねぶたDAY実施企業マーク」は「粋」であることの証明である。限られた人数で仕事をしているなか、営業日に休みをとってもらったり、仕事を早く切り上げてもらうのは簡単なことではない。それを税金の優遇制度などのためではなく、青森ねぶた祭のためだけに実行するのである。まさに「粋」である。また、現在は人手不足の時代であり、多くの企業団体にとって人材の確保が課題となってきた。これから就職しようとする者で、ねぶたが好きならば「ねぶたDAY実施企業マーク」は「この企業に入ること、ねぶたに参加しやすくなる」という企業選択の理由の1つになる。企業や団体側にとっても、人材募集の際のアピールするポイントの1つになる。また、所属する従業員は、青森ねぶた祭をとおして街づくりに参加しているという誇りが持てる。

ねぶた祭応援企業認定は、青森ねぶた祭に直接関わってなくても、祭りを支えている誇りと青森市民であるという帰属意識を高める効果がある。また、「ねぶたDAY実施企業マーク」と共通するが、所属する従業員は青森ねぶた祭をとおして、街づくりに参加しているという誇りが持てる効果がある。

認定ステッカーを車に貼ることで、まちの賑わいにつながる。ねぶた祭りが近づけば、青森市民の意識高揚にもなる。観光客に対しては青森ねぶた祭が、青森市にとって欠かせない大事なお祭りであることをアピールすることができる。

青森ねぶた祭実行委員会のメリット

青森ねぶた祭実行委員会は認定マークや認定ステッカーを有料で発行することにより、青森ねぶた祭の資金を得ることができる。また、祭りが更なる賑わいをみせるのは喜ばしいことと考える。

青森市のメリット

これらの方法によって、青森ねぶた祭へ参加する青森市民が増えれば、祭り会場での消費活動の増加につながる。青森市にとっては税収向上のメリットがある。また、他の市町村では、条例の制定と認定マークでの祭りに対する参加促進の取り組みをしている例が他にないため、独自の取り組みをしている市町村として青森市の特色を出すことができる。

青森市の人口が減少し続ける時代であるため、このような取り組みが有効になるのではないかし、ねぶたを愛する市民を増やすためにも必要な取り組みになると思う。

提言No.3

参加者のためのインフラ整備について

～ 祭りへ向かう青森市民の
移動手段を含めたインフラ整備の提言 ～

現状と課題

祭りへ参加しやすい環境の必要性

青森ねぶた祭は、運行管理者や曳き手、囃子、跳人、見物人など青森市民の参加によって支えられている。ねぶた祭に参加する青森市民が減少すると、青森ねぶた祭が衰退に向かうのは明白の事実である。そこで祭りに参加しやすい環境を整えることも大事なことであり、環境を整える中で、重要な要素の1つが移動手段である。

祭りと自家用車

冬期間になると雪が降るためか、青森市民の多くは自家用車で通勤したり、買い物に出かける。青森市民にとって、自動車は大切な移動手段である。しかし、青森ねぶた祭期間中は青森市内を往来する観光バスや車両が増加し交通状況も混雑する傾向にあり、祭り会場の近隣駐車場は早い時間から満車になる。そのため、青森市民が祭りに参加する移動手段として自家用車は適さない。また、八甲通りの国道から山手側の道路には違法駐車が続出しているという現状もある。自転車で移動する参加者も多いが、駐輪場は存在せず、歩道などに駐車する人が多く、自転車参加者へのインフラ整備がなされていない状態である。それでも、自転車で参加できるようならばまだ良いが、明らかに遠方であるために自転車も利用できない青森市民も存在する。

そこで、少しでも青森市民が参加しやすい環境を整えるために、移動手段を検討してみたい。

提 言

- 会場から近いところに住む市民は自転車で参加する方が多いため、専用の駐輪場を設置する。
- また、遠方に住む市民には市営バスを利用していただき、ねぶた関連の衣装（跳人衣装、囃子衣装、半纏やバケット、浴衣）を着た人は無料または100円で利用できる。
- 私服で祭り会場へ行き、会場周辺で着替えたい人のための施設を設置する。

駐輪場の設置

まずは自転車で参加する青森市民のためのインフラ整備を検討してみたい。問題の一つとしては駐輪場が無いことである。そこでねぶた期間中、浦町小学校隣の空き地を自転車置き場として活用してはどうか。利用後に整地をしなければならないが、橋本小学校、長島小学校など会場に近い学校校庭も活用できるのではないだろうか。また、新庁舎となる市役所にはサードプレイス機能を備えた空間が設けられることが検討されている。そこに併設される駐車場を祭り期間に駐輪場として開放することで更なる賑わいの創出を作り出しやすい環境を整えることができると思う。また、自家用車での違法駐車が頻出する八甲通りの国道から山手の部分については、封鎖できる部分を封鎖し、道路そのものを駐輪場として活用することも提案したい。その他の市有地も自転車置き場の候補地となる。駐輪場を設置できれば、会場に近いところに住む青森市民は自転車でねぶた会場へ向かうことができる。

市営バスの有効活用

遠方に住む青森市民は市営バスを利用することで、移動手段を確保できる。その際、ねぶた関連の衣装（跳人衣装、囃子衣装、半纏やバケツ、浴衣）を着た人の運賃を無料または100円にすることで、さらに利用しやすくなる。可能であるならば、バス停の近くに駐輪場があっても良いのではないだろうか。バス利用者で、バス停の近くに住んでいるならばバスが利用しやすいが、バス停からも離れた距離に住んでいる者もある。この場合、自宅からバス停までは自転車を利用する人は多いと考えるためである。また、ねぶた祭りの期間中は、郊外から祭り会場へ向かう便の数を増やすといった特別運行をすることも必要になる。

バスで参加した青森市民に対して、帰りの手段についても検討してみたい。祭りに参加したり、見物した後は、お腹が減るため近隣のお店で食事をしたいのが人情だ。そこで祭り期間中は、運行ルート近くの停留所で利用者を乗せる最終時間を1～2時間ほど延長していただければ、食事する時間も確保できるのではないだろうか。

着替えができる施設

祭り参加のためのインフラということであれば、着替えができる施設のことも検討してみたい。参加者の中には私服で向かい、会場周辺で着替えたいと考える人もいる。青森ねぶた祭期間中は、浦町小学校の体育館を荷物の預かりを含めた着替えをするための施設とすることも有効なのではないか。これは試験的な試みとしてみても良いかもしれないが、施設の利用料を300～500円とする。例えば50人が利用したことを考えると、アルバイトだったり、市の職員が残業しても手当てを出すことができる。

可能ならば、これらの移動手段を青森市民に向かって告知することによって、青森市民への参加促進がなされる。

駐輪場設置の効果

駐輪場を設置することにより、会場に近い青森市民が自転車でねぶたに参加しやすくなり、歩道に自転車が散乱することが減少する。また、青森市民へねぶた参加を呼びかけたときに、移動手段として自転車を推薦することが可能となるため、青森市民のねぶた離れを防止する効果も期待できる。

市営バス利用の効果

遠方に住む市民も市営バスという移動手段を確保することによって、祭りへの参加がしやすくなる。特に青森市民でなくても、電車から降りて青森駅から会場へバスで向かう方にとっても、ただ見物するのではなく、跳人として参加する意識づけになる可能性もある。ねぶた関連の衣装を着ている人は無料または100円にするためである。無料または100円にすることで市営バスを利用する参加者が増えることが予測され、これを契機として、市営バスの良さを認識して、青森ねぶた祭期間以外の時期でも市営バスの利用者が増加することも見込まれる。ねぶた祭への参加を呼び掛けたときに、遠方に住む市民に対しては移動手段として、市営バスを推薦することも可能になる。

手法で述べたことと重複するが、市営バス利用の場合、祭りに向かう時間はバラバラであるが、帰りは同じ時間のバスを利用することが考えられ、帰りのバスが非常に混雑することが予想される。そのことも、最終バスの運行時間を1時間延長させることによって、過度の混雑を回避することが可能になる。飲食店にとっては収入の向上につながり、青森市にとっては税収の向上につながる。また、帰りのバスが過度に混雑するのを避ける効果も出てくる。

移動手段が確保されることにより、近距離にしても、遠距離にしても祭り会場へ自家用車で参加するものが大幅に減少する。このことは渋滞の緩和につながり、救急車などの緊急車両も現場に向かいやすくなる。

着替えができる施設の効果

着替えの施設にしても、仕事帰りに祭りに参加したい人にとっては、素晴らしい試みになると考える。インフラが整備され、参加しやすい環境が整った青森ねぶた祭は、今以上に愛着のある祭りになる。

提言No. 4

運行について

～ 参加した青森市民のための運行に対する提言 ～

現状と課題

現在の運行方式について

平成12年、カラス跳人を含むカラス族の延べ人数が急増し、約1万1千人となった。対策の1つとして平成13年に開始されたのが、現在の一斉スタート方式である。カラス族は最後尾に集まる傾向があることから、最後尾を作らないのが目的である。同じく平成13年に施行された青森県迷惑行為等防止条例との相乗効果により、平成29年の運行では大幅な減少をみせている。

一斉スタートのデメリット

カラス族問題はほぼ解消されたが、跳人が多いときはコースを1周できないという問題がある。1つの団体でも進行が遅れると、続く団体は前に進むことができないため、全体の進行が遅れる現象へと発展する。1団体の運行体形距離は110メートルと定められているが、跳人が増えることで運行体形距離は長くなってしまう。平成15年から平成29年までは90日の運行がなされており、1周出来たのは59日（65.6%）、数台または全ねぶたが1周出来なかったのは27日（30.0%）、記載のないのが4日（4.4%）となっていた。周回ができないとねぶたを見に来た青森市民や観光客の中には不満がでる人が発生するデメリットが生じる。

跳人の制御

コースを1周できない原因の1つに跳人を制御できないことがあげられる。制御とは、跳ねるのに夢中になった跳人が原因で運行が遅れている場合、運行関係者が前へ行くよう促し、進行を早めることを指す。跳人は後ろに行きたがる。人数が増えるほどに、その傾向が現れてくる。跳人が後方に集まると統制やロープ持ちが大声を張り上げても効果が薄い。後方の跳人が前方に移動する頃、跳人区画は間延びしており、結果として運行が遅れてしまう。

対策を講じる必要性

子どもにねぶた教育をし、市民参加を促し、参加する市民へのインフラ整備を提言してきた。これらの提言を実行した際に予想されるのは見物人ばかりではなく、跳人も増えることである。跳人が増えるのは良い事であるが、一斉スタートでは1周できない日が増えることも予想できるため、良い方法を講じる必要がある。

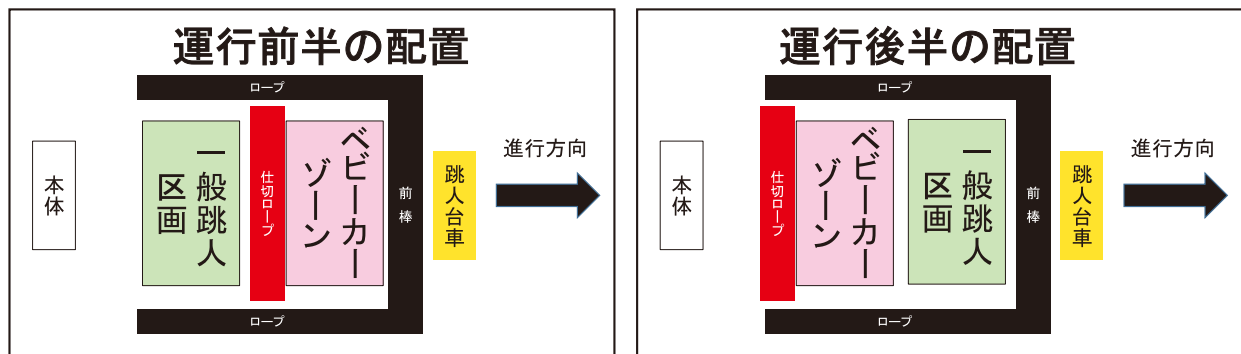
提 言

- 跳人台車と締めロープの推奨または義務化。
- 吹流し方式での運行。

2017年の事例紹介

2017年、青森青年会議所では跳人を盛り上げるための跳人台車を用意し、同時に家族連れの跳人を受け入れるために、ベビーカーを積極的に受け入れる事業を開催した。結果としては大成功で、初日の運行では沢山のベビーカーが参加してくれた。先頭から跳人台車、ベビーカーゾーン、一般跳人区画（ベビーカー関連者との区別のため「一般」という単語を用いる）、本体という順序で配置し（図1を参照）、安全のためにベビーカーゾーンと一般跳人の間には仕切ロープを設置したところ、興味深い出来事が起こる。後方にいるはずの一般跳人が、跳人台車による賑わいに誘われるようにベビーカーゾーンへ侵入してきた。次第にベビーカーと一般跳人が交じり合い、最後には一般跳人区画とベビーカーゾーンが逆になってしまったのである。（図1を参照）

図1 運行前半と後半の配置比較



ベビーカーゾーンと一般跳人区画はロープで仕切る必要がないほど、明確に区別されていた。配置が逆になると、ベビーカーを操る方が雑談を始めたり、記念写真を撮りはじめたので、その方々を前方に促すように仕切ロープを最後尾に配置した。最後尾に配置した仕切ロープの効果が高く、ベビーカーを含めた遅れる跳人はなくなった。例年と比較すると、統制やロープ持ちが前へ促す機会も減少した。すなわち、2017年の運行では跳人を制御できたと考える。

跳人台車と締めロープの推奨または義務化

制御できた理由は2つ考えられる。跳人台車と最後尾に移動した仕切ロープである。最後尾に移動した仕切ロープは仕切るものがないので、最後尾を締めるという意味を込めて「締めロープ」と名づけた。跳人台車が跳人を前方に移動させ、最後尾の仕切ロープが遅れる人を前に移動させたのである。跳人台車は運行開始時から跳人をまとめているので、前方に進んで欲しいときは拡声器を利用して呼びかけるだけで、素直に言う事を聞いてくれる。締めロープは両サイドと真ん中に人員を配置しており、その側には後方の跳人に対し前方に進むよう呼びかける人員を配置する。人手が不足するときは真ん中にいる人員が、一時的に持ち場を離れて呼びかけても良い。締めロープのメリットは後方のラインを上げたい意図が視覚的に跳人に伝わるので、締めロープのない状態のときと比較して、跳人を制御しやすい。今年の実例から、跳人を制御するためにも跳人台車と締めロープを全団体に推奨または義務化することを提言したい。

違う運行方式を考えてみる

一斉スタートにおける1周できない別の原因は、常に前に別の団体がいることである。何らかの理由で進行の遅れた団体があれば、遅れが後方へ伝播し、後方の団体の進行速度は遅くなる。最初に遅れた団体は、前の団体に追いつくことが目的となり、追いついた団体の進行速度の低下に気づかず、自覚がない状態で遅い速度での運行となる。例え気づいたとしても前の団体を追い越すことができないので、遅い速度で進行しなければならない。運行体形距離が110メートル以内であったとしても、全体の進行速度が遅ければ、定められた時間内に1周することができない。更には、原因究明も困難である。全ての団体が「急に前の団体が遅くなった。」と言うためだ。

そこで一斉スタートのように輪につながるのではなく、吹流しのように1列になって運行すれば、どうなるか。何らかの理由で進行が遅れた団体は、目標のポイント到達時間に間に合うように進行速度を上げる。目標となるポイントへ時間内に到達したら、次のポイントへの到達時間を考えて進行速度を調節すれば良い。遅れが後方へ伝播することは一斉スタートと同じだが、進行速度が回復することが違う。

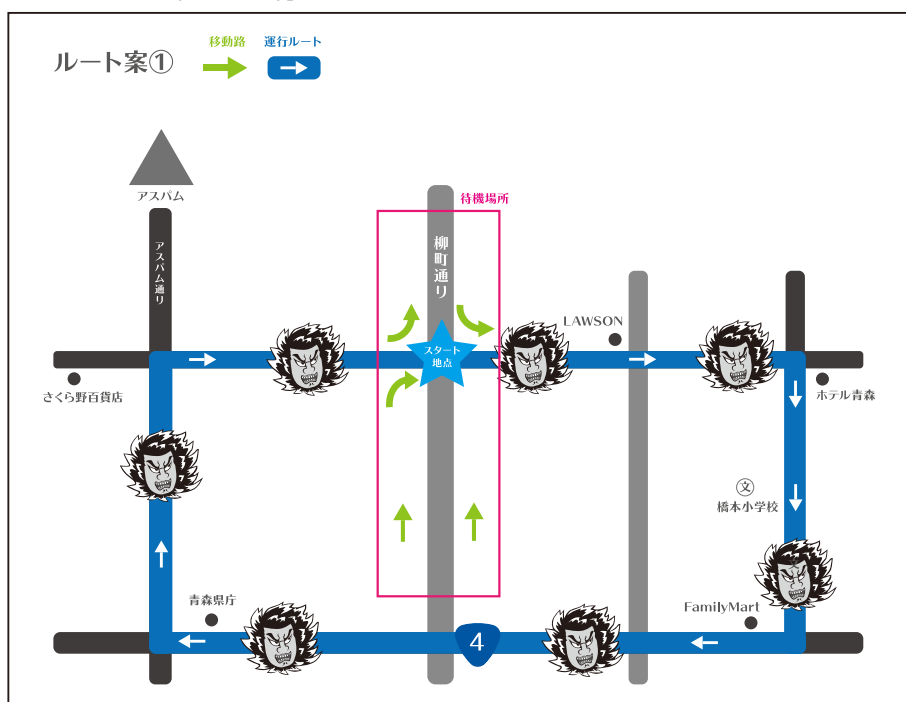
吹流し方式

跳人台車と締めロープで跳人を制御することを大きな前提として、吹流し方式を検討してみたい。運行コースとしては、ルート案1とルート案2を考えた。吹流しの問題は、国道規制解除の時間内に全てのねぶたが国道を通過できるかということである。現在、国道の規制時間は18時40分～21時20分までと定められている。そこで平成29年の青森ねぶた祭「ねぶた運行要領」のデータを元に計算をしてみた。参考にしたのは8月6日（22台出陣）の各ポイントを通過するのに必要な時間である。

ルート案1のコース概要

今と同じ運行コースで柳町通りと新町通りの交差点から出発し、ホテル青森を経由して国道に進入し、県庁西角から協働社を通過し、柳町通りと新町通りの交差点から戻るルートである。(図2を参照)

図2 ルート案1の運行コース



ルート案1の時間シミュレーション

運行時間をシミュレーションした表1を掲載した。各団体の先頭がポイントを通過する時間を記載した。4分毎にねぶたが出発する。運行開始時間を18時30分とすれば、先頭のねぶたは19時01分に国道へ進入し、最後のねぶたは21時05分に国道を通過することができる。ねぶたが出発する時間を3分毎に設定したり、運行開始時間を早めることができるならば、国道を閉鎖する時間は一層早く開放することができる。

表1 ルート案1の時間シミュレーション（各団体の先頭が通過する時間）

出発のタイムラグ 0:04		コースの運行順序							国道進入時間
※赤い数字はポイントまでの所要時間		ホテル青森 → 国道 → 協働社							国道脱出時間
運行団体	新町柳町	青い森信金	ホテル青森	住友生命角	NTT	国道柳町	県庁西角	協働社	新町柳町
1	18:30	0:12	0:13	0:06	0:11	0:15	0:14	0:10	0:11
2	18:34	18:42	18:55	19:01	19:12	19:27	19:41	19:51	20:02
3	18:38	18:46	18:59	19:05	19:16	19:31	19:45	19:55	20:06
4	18:42	18:50	19:03	19:09	19:20	19:35	19:49	19:59	20:10
5	18:46	18:54	19:07	19:13	19:24	19:39	19:53	20:03	20:14
6	18:50	18:58	19:11	19:17	19:28	19:43	19:57	20:07	20:18
7	18:54	19:02	19:15	19:21	19:32	19:47	20:01	20:11	20:22
8	18:58	19:06	19:19	19:25	19:36	19:51	20:05	20:15	20:26
9	19:02	19:10	19:23	19:29	19:40	19:55	20:09	20:19	20:30
10	19:06	19:14	19:27	19:33	19:44	19:59	20:13	20:23	20:34
11	19:10	19:18	19:31	19:37	19:48	20:03	20:17	20:27	20:38
12	19:14	19:22	19:35	19:41	19:52	20:07	20:21	20:31	20:42
13	19:18	19:26	19:39	19:45	19:56	20:11	20:25	20:35	20:46
14	19:22	19:30	19:43	19:49	20:00	20:15	20:29	20:39	20:50
15	19:26	19:34	19:47	19:53	20:04	20:19	20:33	20:43	20:54
16	19:30	19:38	19:51	19:57	20:08	20:23	20:37	20:47	20:58
17	19:34	19:42	19:55	20:01	20:12	20:27	20:41	20:51	21:02
18	19:38	19:46	19:59	20:05	20:16	20:31	20:45	20:55	21:06
19	19:42	19:50	20:03	20:09	20:20	20:35	20:49	20:59	21:10
20	19:46	19:54	20:07	20:13	20:24	20:39	20:53	21:03	21:14
21	19:50	19:58	20:11	20:17	20:28	20:43	20:57	21:07	21:18
22	19:54	20:02	20:15	20:21	20:32	20:47	21:01	21:11	21:22
23	19:58	20:06	20:19	20:25	20:36	20:51	21:05	21:15	21:26

ルート案1における各団体の最後尾がポイント通過する時間

吹流しにおいて大事なのが、各団体の最後尾の時間管理である。先頭が時間内にポイントを通過したとしても最後尾が通過しなければ、全体の遅れにつながる。そこで最後尾が通過するべき時間を記載した。（表2参照）各団体の先頭が通過する1分前に、最後尾が通過するようにすれば、全体的な遅れが発生することはないと考える。もっと細かくやるのであれば、次の団体通過の20秒前や30秒前に設定することも可能である。もし、最後尾が通過する時間に遅れが生じるようであれば、審査の点数に反映させるなどの対処は必要であると考えられる。

表2 ルート案1における各団体の最後尾が通過する時間

出発のタイムラグ 0:04		各団体の最後尾が通過する時間							国道進入時間
※赤い数字はポイントまでの所要時間		コースの運行順序【ホテル青森→ 国道→ 協働社】							国道脱出時間
運行団体	新町柳町	青い森信金	ホテル青森	住友生命角	NTT	国道柳町	県庁西角	協働社	新町柳町
1	18:33	0:12	0:13	0:06	0:11	0:15	0:14	0:10	0:11
2	18:37	18:45	18:58	19:04	19:15	19:30	19:44	19:54	20:05
3	18:41	18:49	19:02	19:08	19:19	19:34	19:48	19:58	20:09
4	18:45	18:53	19:06	19:12	19:23	19:38	19:52	20:02	20:13
5	18:49	18:57	19:10	19:16	19:27	19:42	19:56	20:06	20:17
6	18:53	19:01	19:14	19:20	19:31	19:46	20:00	20:10	20:21
7	18:57	19:05	19:18	19:24	19:35	19:50	20:04	20:14	20:25
8	19:01	19:09	19:22	19:28	19:39	19:54	20:08	20:18	20:29
9	19:05	19:13	19:26	19:32	19:43	19:58	20:12	20:22	20:33
10	19:09	19:17	19:30	19:36	19:47	20:02	20:16	20:26	20:37
11	19:13	19:21	19:34	19:40	19:51	20:06	20:20	20:30	20:41
12	19:17	19:25	19:38	19:44	19:55	20:10	20:24	20:34	20:45
13	19:21	19:29	19:42	19:48	19:59	20:14	20:28	20:38	20:49
14	19:25	19:33	19:46	19:52	20:03	20:18	20:32	20:42	20:53
15	19:29	19:37	19:50	19:56	20:07	20:22	20:36	20:46	20:57
16	19:33	19:41	19:54	20:00	20:11	20:26	20:40	20:50	21:01
17	19:37	19:45	19:58	20:04	20:15	20:30	20:44	20:54	21:05
18	19:41	19:49	20:02	20:08	20:19	20:34	20:48	20:58	21:09
19	19:45	19:53	20:06	20:12	20:23	20:38	20:52	21:02	21:13
20	19:49	19:57	20:10	20:16	20:27	20:42	20:56	21:06	21:17
21	19:53	20:01	20:14	20:20	20:31	20:46	21:00	21:10	21:21
22	19:57	20:05	20:18	20:24	20:35	20:50	21:04	21:14	21:25
23	20:01	20:09	20:22	20:28	20:39	20:54	21:08	21:18	21:29

ルート案1における待機場所

待機場所には、まる海から柳町通りまでの浜町通り、運行コースである新町通りと柳町通りの交差点から協働社、協働社から県庁西角までの間、ワシントンホテルからリッチモンドホテルに至る柳町通りを2列になって利用する。(図3参照) 22台の大型ねぶたが参加することを前提とすると、1台が利用できる待機場所での距離は70～100メートルとなる。図3において、紫色の四角はねぶたを表し、白抜きの数字は出発順序を示している。運行コースに配置されたねぶたはアピールすることが可能だが、移動する際はアピールを禁止とする。アピールに熱が入る余り、運行が遅れては、何のために運行方法を変えたか分からなくなるためだ。

図3 ルート案1の最終待機

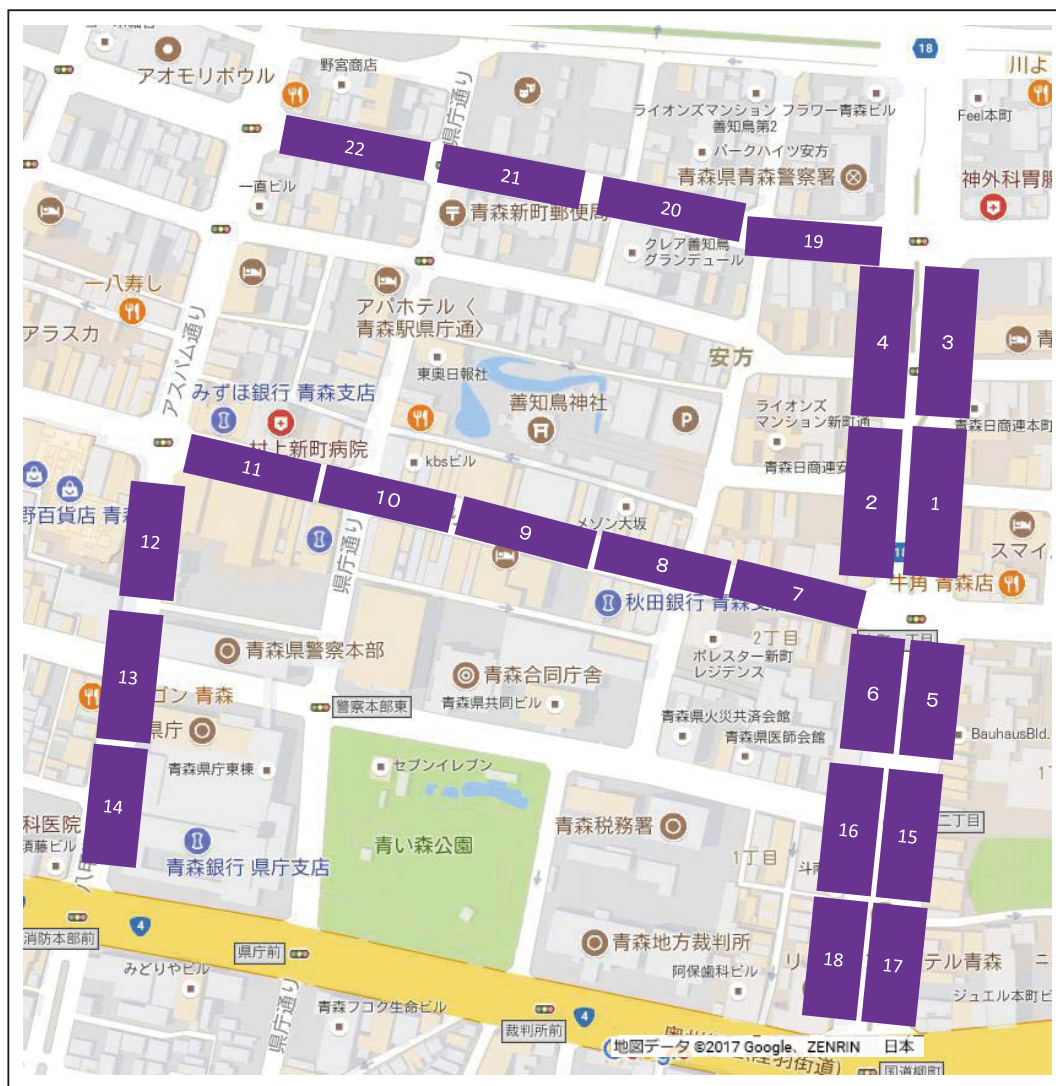


表4 ルート案2の時間シミュレーション

出発のタイムラグ 0:04		各団体の最後尾が通過する時間						国道進入時間	
※赤い数字はポイントまでの所要時間		コースの運行順序【協働社→ 国道→ ホテル青森】						国道脱出時間	
	新町柳町	協働社	県庁西角	国道柳町	NTT	住友生命角	ホテル青森	青い森信金	新町柳町
運行団体		0:11	0:10	0:14	0:15	0:11	0:06	0:13	0:12
1	18:33	18:44	18:54	19:08	19:23	19:34	19:40	19:53	20:05
2	18:37	18:48	18:58	19:12	19:27	19:38	19:44	19:57	20:09
3	18:41	18:52	19:02	19:16	19:31	19:42	19:48	20:01	20:13
4	18:45	18:56	19:06	19:20	19:35	19:46	19:52	20:05	20:17
5	18:49	19:00	19:10	19:24	19:39	19:50	19:56	20:09	20:21
6	18:53	19:04	19:14	19:28	19:43	19:54	20:00	20:13	20:25
7	18:57	19:08	19:18	19:32	19:47	19:58	20:04	20:17	20:29
8	19:01	19:12	19:22	19:36	19:51	20:02	20:08	20:21	20:33
9	19:05	19:16	19:26	19:40	19:55	20:06	20:12	20:25	20:37
10	19:09	19:20	19:30	19:44	19:59	20:10	20:16	20:29	20:41
11	19:13	19:24	19:34	19:48	20:03	20:14	20:20	20:33	20:45
12	19:17	19:28	19:38	19:52	20:07	20:18	20:24	20:37	20:49
13	19:21	19:32	19:42	19:56	20:11	20:22	20:28	20:41	20:53
14	19:25	19:36	19:46	20:00	20:15	20:26	20:32	20:45	20:57
15	19:29	19:40	19:50	20:04	20:19	20:30	20:36	20:49	21:01
16	19:33	19:44	19:54	20:08	20:23	20:34	20:40	20:53	21:05
17	19:37	19:48	19:58	20:12	20:27	20:38	20:44	20:57	21:09
18	19:41	19:52	20:02	20:16	20:31	20:42	20:48	21:01	21:13
19	19:45	19:56	20:06	20:20	20:35	20:46	20:52	21:05	21:17
20	19:49	20:00	20:10	20:24	20:39	20:50	20:56	21:09	21:21
21	19:53	20:04	20:14	20:28	20:43	20:54	21:00	21:13	21:25
22	19:57	20:08	20:18	20:32	20:47	20:58	21:04	21:17	21:29

ルート案2における待機場所

待機場所には、まる海から柳町通りまでの浜町通り、運行コースである新町通りと柳町通りの交差点からホテル青森、ホテル青森から住友生命ビルまでの間、ワシントンホテルからリッチモンドホテルに至る柳町通りを2列になって利用する。(図5参照) 22台の大型ねぶたが参加することを前提とすると、1台が利用できる待機場所での距離は70～100メートルとなる。図5において、紫色の四角はねぶたを表し、白抜きの数字は出発順序を示している。運行コースに配置されたねぶたはアピールすることが可能だが、移動する際はアピールを禁止とする。アピールに熱が入る余り、運行が遅れては、何のために運行方法を変えたか分からなくなるためだ。

図5 ルート案2の最終待機



最後尾のねぶたに跳人が合流する対策

吹流し方式で考えなければならないのが、運行終了したねぶたから最後尾のねぶたへ跳人が移動することである。最後尾のねぶたに跳人が極端に集中し、制御不能となる可能性があるためだ。ルート案1とルート案2では、先頭のねぶたが柳町通りと新町通りの交差点に進入する前に、最後尾のねぶたは待機場所を移動する。(表1および表2を参照) 時間差は8分。そこで、最後尾のねぶたが待機場所を出たときに図6のような障壁を運行コースへ向かう道路に設けることで、跳人の移動を防ぐことができる。また、最後のねぶたの最後尾から背後に向けてブルーライトを照射させるのも有効である。ブルーライトには人の心を落ち着かせる効果があるからだ。

図6 合流対策



カラス族

カラス族問題がある。そもそもカラス族対策として導入されたのが、一斉スタートである。平成29年では数人まで減少したが、存在しているのは確かだ。しかしながら、平成13年以前と違うのは、青森県迷惑行為等防止条例の存在と運行団体関係者の意識である。ロープ持ち、または運行統制がカラス族を跳人に紛れさせない限りは、目立つ活躍をすることができない。また、ホイッスル禁止や支援隊、警察の警備体制の徹底など、カラス族が横行した頃とは事情が異なる部分が多い。カラス族は人数が増えれば制御できない脅威となるが、人数が増えない限りは対処できる。祭りで目立たなければ、カラス族に憧れることはなく、人数は増えないものとする。

効 果

跳人台車と締めロープの効果

跳人台車と締めロープの効果に関しては、手法を紹介する関係で記載をしたが、改めて説明したい。跳人台車に関しては、台車に乗る盛り上げ役の力量にも関係するが、跳人を前に行きたいと言う気持ちにさせる。多くの跳人は前方に行くが、中には比較的賑わいの少ない後方でゆっくりしたい跳人もいる。ゆっくりしたい跳人は、進むべきときでも遅れる傾向が強い。そのようなときは、締めロープの担当者が促すと素直に前に行ってもらえる。統制としては、締めロープの担当者に指示を出すだけなので、跳人へ直接呼びかけるよりも労力が少ない。

跳人台車と締めロープの利用を前提とした吹流し方式

これまで手法の部分で吹流し方式のメリットも書いてしまったが、改めて強調することがあるとすれば、遅れた団体がいたとしても運行速度を回復できることだ。一斉スタートでは進行速度が低下した場合、1周できる速度で進行することが困難になる。そこを改善できるのが吹流し方式の最大のメリットである。

運行団体にとって

自分の団体の運行状況が時間で計測できることであり、進行する速度を上げようと思えば上げれることである。進行速度が低下した団体がいたとしても一時的なものであり、前の団体が進行速度を回復できれば、運行スケジュールにあわせて速度を調節することができる。

跳人にとって

進行速度が極端に低下することがなく、常に前に向かって跳ねることができるので、跳ねるリズムを安定させることができる。

警察にとって

表1～表4のシミュレーションにあるように、運行時間を早めたり、待機場所からねぶたを出陣させる間隔を短くすることで、国道開放時間を早める可能性がある。

青森市民と観光客にとって

運行予定全てのねぶたを見ることができるので、見物する青森市民と観光客からの不満が少なくなる。隊列が長いときには、進行速度も速いので、時間が来ると次のねぶたを見ることができ、飽きることはない。以上のことから、青森ねぶた祭は青森市民にとって、もっと愛着のある祭りになるだろう。

もっと愛される祭りへ

青森ねぶた祭は、参加すれば必ず好きになります。それだけの魅力を秘めた祭りに発展させるに至っては、関係者の方々の並々なぬ努力があり、文字通り血と汗を流した結果であると考えます。青森青年会議所は50回目の出陣を契機に、まちづくり団体として、青森ねぶた祭を今以上に青森市民に愛され、将来も賑わい続ける祭りであってほしいと願い、本書の提言を策定しました。

当初の提言は、課題と提言内容、効果というシンプルなものでしたが、実現性を高めるために、手法も記載させていただきました。手法に関しては、そのまま活用できないようであれば、異なる手法を用いても構いません。

青森ねぶた祭実行委員会は青森観光コンベンション協会、青森商工会議所、青森市、青森県などの関係者で組織されています。関係する方々は、自分の仕事を持ちながらも献身的な努力をして、それぞれの立場で祭りを開催し、盛り上げています。そのような忙しい中であっても、本書にある提言に共感していただき、実現できそうな内容があれば、実行していただければと存じます。青森ねぶた祭を今以上に市民に愛される祭りにしたいと心から願います。

追 記

部会では、提言するに到らなかった案やページ数の問題で採用されなかった案、趣旨に沿わない案などがある。しかしながら、担当者としては、どれも愛着のある子どものような存在であり、多大なる時間をかけてきたものであるため、永久に葬るには名残惜しい。そこで、多くのページを割くわけにはゆかないが、簡潔にご紹介させていただきたい。

- 青森ねぶた祭を栈敷席で落ち着いて見物したい青森市民や観光客は多数いることから、栈敷席を増やす。増やすには出店などの関連性のない県庁付近の空間において栈敷を増やす検討をしてみてもどうか。また、国道6車線の内、両側1車線を巨大なカラーコーンを設置することで運行コースと区別し、障がい者や子どもに対して開放をする。
- 審査基準や審査方法が分からない青森市民がいることから、祭り開始の前に新聞で発表する。祭りを盛り上げるためにも、毎日、賞を新聞などで発表する。総合賞の名前は順位が分かりにくいことから、賞の名前をねぶた大賞、準ねぶた賞、ねぶた賞にする。
- 予算を増やすために、ねぶたクジを開催する。
- 青森市役所に「青森ねぶた課」を設立する。
- 青森ねぶた祭の評判を落とさぬためにも、運行後のねぶたの所在と責任について管理をする。遠征するねぶたに対して、跳人や囃子、運行管理者の人数など条件をつけて、許可制にする。また、細かく管理するために、青森ねぶたの定義を明確にする必要がある。
- 観光バスが路上駐車をしているので、祭り期間中に観光バス専用の駐車場をつくり、そこから送迎バスを往復させて、観光客を祭り会場へ案内する。
- 江戸時代から存在する金魚ねぶたを、青森ねぶた祭や青森市のイメージキャラクターとして、もっと活用できないか。
- 青森ねぶた祭りへの来場者数を安定させるために、祭り期間を日付ではなく、曜日制にする。調査したところ、来場者と曜日の関連性がないことが分かった。

あとがき

ねぶた事業室 副室長 大 中 大 輔

2016年11月に提言書策定部会を発足し、資料を読み始めました。策定部会は理事長、直前理事長、監事を始め、現役メンバーの実行委員長経験者、ねぶた事業室室員で構成されております。最初から意見が活発に出ており、ねぶたに対する熱い思いを感じました。

3月までは順調に提言書策定を進行させることができましたが、4月からはねぶた後継者育成事業として、中学校に出前授業を行う『Go! Fes!! ねぶた!!!』資料作成のため、約1ヶ月の中断を余儀なくされました。しかしながら、5月には提言書策定を再開し、紆余曲折を経て、何とか皆様にお披露目できることになりました。

検討段階では15以上の案がありました。複数の案を提言としてまとめる作業は、複数の企画を同時進行で組み立てる作業に似ていました。検討を重ねるうちにお蔵入りとなった案が数多く、最終的に本書にあるような数に絞られました。思い入れの深い提言はNo.3であり、この提言は4つ以上の案を組み合わせで完成となりました。

本書を公表するにあたり、策定部会以外にも多数の方にご意見や感想をお伺いし、ご協力をいただきました。ご多忙にもかかわらず、ご協力いただきましたことに深く感謝申し上げます。本当にありがとうございました。本書をお読みいただく上で、共感できない内容に対して憤りを感じることもあるかと思いますが、青森ねぶた祭が発展することを目的に智恵を絞ったものであり、どうかご理解を賜りますよう、お願い申し上げます。

発 行	平成29年10月10日
発 行 人	公益社団法人青森青年会議所2017年度ねぶた実行委員長 倉 橋 龍太郎
編 集 人	公益社団法人青森青年会議所2017年度ねぶた事業室 副室長 大 中 大 輔 (編集長) 副室長 関 貴 光 副室長 三 浦 弘 誉 幹 事 須 藤 慶 治 室 員 蛭 名 將 之 室 員 楠 美 耕 作 室 員 中 村 準 室 員 福 田 光一郎
編集協力	直前理事長 日 野 勲 第46代ねぶた実行委員長 吉 川 康 久 第48代ねぶた実行委員長 千代谷 一 寿 第49代ねぶた実行委員長 山 道 雄 也
発 行 所	公益社団法人青森青年会議所 理事長 佐 藤 善 一 〒030-0802 青森市本町2丁目1-25 TEL 017 (722) 3355 FAX 017 (722) 3356
印 刷 所	第一印刷株式会社